

日本共産党東京都議会議員 (厚生委員)

藤田りょうこの都政報告



連絡先 藤田りょうこ事務所 大田区西蒲田6-34-7
☎ 3736-1494 fax 3735-4522

藤田りょうこ 検索

発行 日本共産党東京都議団 新宿区西新宿2-8-1 ☎ 5320-7270

**都民のみなさんとの運動を力に
貴重な前進がありました**

都議会議員 藤田りょうこ

9月18日に開会した都議会第三回定例会は10月8日閉会しました。

無症状者が感染を広げる特徴がある新型コロナウイルスの感染拡大防止と社会活動両立のカギは、PCR検査の抜本的拡大です。共産党都議団が、「検査数を1日数万件に引き上げること」を求めたことに対し、知事が「検査体制の強化を図る」と答弁したことは重要です。6月までの「必要な検査が実施されている」という認識からは大きな変化が見られました。

「入所施設以外にも検査を拡大すべき」
共産党都議団の代表質問であきらかに



PCR検査

ディサービス ショートステイ
**高齢者・障害者施設 通所や短期入所も
都補助の対象に**



都議会
2020年第3回定例会

さらに予算をふやせ

【PCR検査の拡充を受けて共産党都議団が作成したバナー】

PCR検査が拡充

今回、共産党都議団が繰り返し要求してきた高齢者や障害者の入所施設での検査などの支援が予算化されたこと、区市町村との共同実施で行う検査等の対象に、通所施設やショートステイが含まれたことは重要です。さらに、医療や保育、学校なども含め、職員などへの検査が公費で、定期的に行えるよう求めました。

営業支援は急務

廃業が増えるなど中小業者の厳しい現状への認識を知事にただし、都独自の年越し給付金の創設、国の家賃支援給付金への都の上乗せ、国制度では対象外となる事業者への都独自の給付などを求めました。知事は「深刻な影響がおよんでいる」ことを認め、「事業継続や雇用の維持への支援を展開する」と答弁しました。

保健所の増設を

多摩地域にかつて17カ所（大田区は4カ所）あった都の保健所は、7カ所（大田区は区立1カ所）まで減らされました。

コロナ禍で保健所は多忙を極め、疲弊しています。感染症対策だけではなく地域住民の健康を守る拠点として保健所の果たす役割は重要であり、

各地で「保健所を増やしてほしい」という運動が広がっています。知事が保健所の重要な役割への認識を示し、「今後その在り方を検討していく」としたことは、今後につながるものであり重要です。保健所の増設・拡充を進めるよう求めました。

勝手に決める小池知事

一方、知事が2期目に就任して初めての定例会でしたが、「都民と決める」という小池

知事の中心公約をさっそく投げ捨て、「知事が勝手に決める」という重大な問題が浮き彫りとなりました。

7月の臨時会直後にコロナ対策条例を専決処分（議会にかげずに決めること）したことに続き、今定例会は専決処分の議会承認が得られていない中、新たにコロナ対策条例の改正が提案されました。条例改正の自身が、「患者がみだりに外出しないこと」などを努力義務とし、都民の権利制限につながることを、区市町村からも疑問等の意見があることから、共産党都議団は専決処分には不承認、改正案には反対しました。

厚生委員 藤田りょうこ

障害者に配慮したコロナ対策を



して登録のある病床は14病床、1医療機関」で、多摩地域で確保していると答えました。他の医療機関では対応困難な場合は、都立、公社病院で受け入れているということですが、より特性に配慮できるためにも、福祉・医療・感染症対策の各部署が連携して対応することを求めました。

委員会の意向で、陳情は趣旨採択となりました。

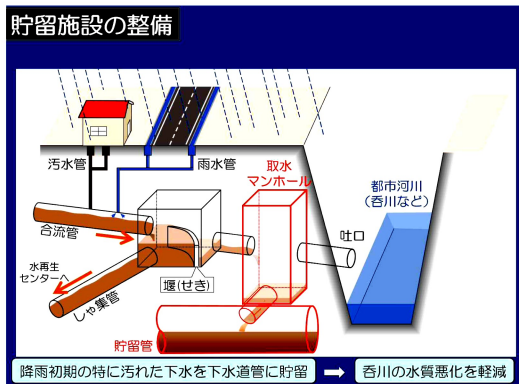
写真は厚生委員会で質疑する藤田都議 10月2日

— 呑川の水質改善を進める計画 —

23区内の下水道は9割以上が汚水と雨をいっしょに流す合流式です。そのため、短時間に多くの雨が降ると、管からあふれた下水が河川に流れ込み、特に下流の水が汚れる原因となっています。大田区では9月から合流改善事業の工事が始まりました。

“合流改善事業とは”

あふれた下水は「放流管」を通して、呑川全体で20か所ある「吐口」から川に流れ込みます。あふれた水は初期が特に汚れているので、その放流管を横でつないで「貯留管」を作り、初期の水を一時的に貯めることを目的としています。



(図の赤線部が貯留施設)

※図は大田区都市基盤整備部 建設工事課資料による

“全体の工期は10年”

貯留管を通すための立坑を作るため、大田区立東調布公園の屋外プールが無くなりました。全体の工事が終わるまでの10年間は、屋外は代替えの流れるプール(2022年夏から使用可)のみとなります。

西馬込駅に駐輪場整備！住民の運動実る

都営浅草線の西馬込駅は乗降客が増え、近隣にはマンションが増加。保育園も



357台 11月1日 オープン

増える中、区の駐輪場が少なく、自転車が増えるにつれて、自転車が近くのスーパリーなどに放置され苦情が出ていました。2018年10月には「西馬込駅の安全と環境を考える馬込住民の会」の皆さんとともに大田区や東京都にも申し入れを行ってききました。この度、住民の運動が実現し、駐輪場の整備が実現しました。駐輪可能台数は357台、11月1日オープン予定です。

写真は西馬込駅の安全と環境を考える馬込住民の会のみなさんと11月9日27日

厚生委員 自殺対策を求める陳情 “増加要因の分析を”

コロナ禍により、とりわけ弱い立場の方の命と暮らしに深刻な影響を及ぼしています。都の自殺者は2001年以降減少に転じていましたが、今年6月から増加、8月には昨年の1.4倍にも上りました。SNS相談では、学校や進路に関する相談が6月以降増加し、20歳未満の自殺者数も6月が大幅に増えています。長い休



委員会で質疑する藤田都議

校のすえ、緊急事態宣言が解除されて間もなく、学校が再開されたことが影響しているのではないかと思われることから、都として20歳未満の自殺者の増加要因について分析するよう求めました。

上池台の水害対策



大田区上池台3丁目は、1時間に50ミリ以上の雨が降ると、毎回のよう床上浸水が発生してしまいました。一昨年の私の質問に対し都は、「2016年から75ミリの降雨に対応する施設整備を実施しており、2019年度末までに一部完成した下水管を暫定的に稼働させるなどして効果を発揮していく」と答弁していました。

早期に効果を発揮させる目的で、大田区立小池小学校南側の地下に、直径1m、延長250mの下水道管を先行整備し、今年1月から稼働させていることがわかりました。これにより上池台3丁目付近で多発している浸水被害の軽減が期待できます。

緊急申し入れ

9月11日、共産党都議団は第三回定例会を前に、都民の実態を伝えながら、緊急にコロナ感染症対策を行うよう、小池都知事あての申し入れを行いました。

要望内容は、◎スクリーニングでのPCR検査の拡充、◎インフルエンザ流行期への対策、◎医療機関の現場や経営への支援、◎保健所の体制強化と負担軽減などの20項目です。



都の担当者(左側)に申し入れを行う共産党都議団=9月11日

新型コロナ学習会

70名参加

9月13日約70名の参加で、新型コロナ学習会を行いました。新型コロナ感染症は子どもたちや高齢者、障害者など弱い立場の方に深刻な影響が出ています。少人数学級の必要性など、ご意見や質問もたくさん寄せられました。



新型コロナ対策学習会 徹底した補償とPCR検査の技術拡充を

藤田しづる ●1974年8月11日生 東京都大田区出身 ●1996年東京都立医療技術短期大学看護学科卒 20年間、看護師として従事 ●2017年、東京都議会議員選挙に初当選 都議会厚生委員 ●池上在住

都政へのご意見、ご要望をお寄せください